

第 10 回 福島県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会（県北大会）
第 2 次案内・参加申込について

令和 4 年 6 月吉日

公益社団法人福島県私立幼稚園・認定こども園連合会

各 加 盟 園 設 置 者 ・ 園 長 様

公益社団法人福島県私立幼稚園・認定こども園連合会

理 事 長 平 栗 裕 治

第 10 回福島県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会

大会実行委員長 佐々木 篤行

入梅の候、皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、教員研修大会（県北大会）の第 2 次案内・参加申込を送付させていただきます。1 次案内でお知らせした通り、オンライン開催となります。

参加申込については、同封の申込み手順を参照していただき、インターネットでお願い申し上げます。

記

1 大会主題 「新しい時代をのびやかに生きる」
～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

2 主 催 公益社団法人福島県私立幼稚園・認定こども園連合会

3 後 援 福島県、福島県教育委員会、
一般財団法人福島県幼児教育振興財団

4 日 程 令和 4 年 8 月 1 9 日（金）

9:30～10:00	10:00～10:30	10:30～12:00	12:00～13:00	13:00～16:00	16:00～16:10
オンライン接続	式典	記念講演	休憩時間	分科会	閉会

備 考

新型コロナウイルス感染症対策の為、オンラインでの実施を行う。

昼食は各自でお取り下さい。

5 記念講演 野井真吾先生（日本体育大学 体育学部 健康学科 教授）
テーマ「コロナ禍で考える！子どものからだと心」

6 分科会 (6分科会)

分科会テーマ	指導助言者（講師）	司会者	問題提起者
1 愛されて育つ子供 (教育・保育理論)	大妻女子大学 家政学部児童学科 専任講師 久保 健太 先生	佐藤智彦 (神谷こども園) 金澤右子 (尚志幼稚園) 川名秀典 (福島愛隣幼稚園)	樽川真衣 小田章子 (セントポール幼稚園)
2 子供と共に育つ保育者 【新任教員向け】	國學院大學 人間開発学部子ども支援学科 助教 中野 圭祐 先生	酒井啓亮 (いわき短期大学附属幼稚園) 長谷川翔平 (認定こども園こぼとらんど) 掛田麻奈美 (認定こども園石川文化幼稚園・ クローバー保育園)	嶋田祐希 宮野夏希 (原釜幼稚園)
3 子供理解	東京立正短期大学 現代コミュニケーション学科 幼児教育専攻 准教授 鈴木 健史 先生	村松恵美 (双葉幼稚園) 坂本万純 (めばえ幼稚園) 佐藤真弓 (喜多方かりつ草幼稚園)	馬場奈津見 (平第一幼稚園)
4 社会に開かれた保育実践	武蔵野大学 教育学部 幼児教育学科 准教授 箕輪 潤子 先生	坪 有加 (かなや幼稚園) 鎌田文代 (さゆり幼稚園)	上杉陽菜乃 (天泉こども園)
5 子供が育つ家庭や地域	桜の聖母短期大学 生活科学科 福祉こども専攻責任者 教授 狩野奈緒子 先生	森合さゆり (みらい幼稚園) 国分文子 (たから幼稚園)	戸塚真由美 鈴木彩夏 (若松第二幼稚園)
6 設置者・園長対象 【経営研究委員会】	Eリソースセンター株式会社 代表取締役 石田敦志 氏	経営研究委員会	—

—第10回福島県私立幼稚園・認定こども園教員研修大会（県北大会）事務局—

〒960-0634 伊達市保原町大泉字前原内 246-1

学校法人保原シャローム学園 認定こども園大田

問い合わせ先：090-4046-8900（担当：海老原 嗣）

TEL: 024-529-7611 / FAX: 024-529-7612

Email : yuzuru@sholom.ed.jp

■研究・研修のテーマ例

- ① 0・1・2 歳児(乳児期)と3・4・5 歳児(幼児期)の生活の育ち
- ② いのちの大切さを実践事例から学ぶ保育
- ③ 愛着の形成(人に対する基本的信頼感の獲得)
- ④ 子どもの安全を守る保育と環境

■研究・研修の視点

子どもは、乳幼児期から幼児期へと成長していく中で、保育者が子どもたち一人ひとりの発達段階を理解し、年齢に応じた声かけや関わり合いを持つことで、「自律性」や「自発性」が成長し、日常生活に必要な衣服の着脱、食事、排せつなどを含む「生活の育ち」を培うものである。

また、子どもは園環境の中で、様々な「ひと・もの・こと」と出会い、関わりながら学んでいく。さらに、わくわくするような体験や、美しさ不思議さを感じるような内面を揺り動かされる体験を通して感性が磨かれ、心豊かに育まれる。保育者との応答的なやりとりの中で、愛情深く丁寧に育まれたクラス集団では、一人ひとりの「いのち」と「育ち」への受け止めが確かなものとなり、自己肯定感が醸成されていく姿が見られる。

さらに、子ども同士の深まった関わりの中で起こり得る「葛藤」や「自己実現」を繰り返して経験することで、友達同士認め合う関係性も築かれていき、その中で、自己も他者も尊重するという思いやりの核が培われ愛着の形成へと繋がる。

園での安全指導は、子どもの生命を守り、安全を確保するため重要であり、子どもたち自身も自らを守る行動を取れるように育てることが求められる。幼稚園等においては、保育者同士の連携や日頃の安全点検等を行い、安全管理・危機管理の在り方を考慮した体制を整えていくことに努めていきたい。

■研究・研修のテーマ例

- ① 主体的に学び続ける保育者の在り方
- ② 教育課程の編成と評価・改善
- ③ 自園の保育を語れるリーダーの育成
- ④ 同僚性を育む“語り合い”“学び合い”

■研究・研修の視点

保育者は、子供にとって良き理解者である。人間性豊かな保育者のもとで、安心感や安定感をもちながら園生活を送ることができるようになる。様々な遊びや生活からの学びは、義務教育及びその後の教育の基礎、更には生涯にわたる人間形成の基礎を培うものである。保育者が自らの経験を豊かなものにする事で、子供の遊びや生活を深めること、充実させることにつなげていきたい。子供との生活や関わりの中で、子供とともに現在をつくり、子供との間の体験を省察し、その中で保育者は日々学び成長し続ける存在でありたい。

保育を省察するためのツールとして様々な評価方法を知り使いこなすことで、園や自分の保育の良さや課題についても深い理解が得られる様に、園全体で常に園の教育・保育理念や教育課程を理解し、改善につなげていくことが重要となる。

保育や子供の姿について様々な観点で、同僚と語り合い学び合う園内研修や、保育者一人一人が自らの持ち味を生かすための、キャリアに応じた断続的な研修の受講は園内の組織の活性化につながる。

子供たちの人間形成の基礎に大きく関わる私たち保育者は、子供たちとともに園全体の教育の質向上に努めていきたい。

■研究・研修のテーマ例

- ① 幼稚園教育において育みたい資質・能力の三つの柱の視点から子供の育ちを捉えた記録とその活用
- ② 子供の内面理解（目に見えない内面や心情の理解）
- ③ 子供の発達や発育など、育ちの多様性を理解した上での保・幼・小連携の在り方

■研究・研修の視点

子供理解は、子供の発達を見つめ、一人ひとりの内にある可能性に保育者が気付くことから始まる。そのためには、幼稚園教育において育みたい資質・能力の三つの柱「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」をベースにして、「5領域」を踏まえたうえで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を子供理解と共有の手立てとしたい。

子供は環境との相互作用の中で、自分の興味や要求に基づいて直接的・具体的な体験を通じて人格形成の基礎となる豊かな「心情」を育み、心を揺り動かし、物事に自分から関わろうとする「意欲」や、健全な生活を営むために必要な「態度」を培い、様々なことを学んでいく。そのためには、遊びや生活が子供の発達や内面的な成長にどのように関係するのかを、様々な記録などを通じて理解するようにしたい。

また、子供がどの方向に育ってほしいかを洞察する保育者としての眼を持つと同時に、育ちの多様性（障害・アレルギー疾患・慢性疾患・医療的ケア・性的マイノリティ等）や成育環境（外国につながる家庭・被虐待・不適切な療育・経済的困窮等）に影響される子供への特別な支援の必要性についても、育ちの連続性を視界に入れ、保育者間で子供の育ちの共有を図り、保育者や関係機関とも成長の道筋を共有できるように努めたい。

こうした発達の連続性を踏まえた小学校との連携について、幼稚園等での生活が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを念頭に置き、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが出来るよう教育課程を編成していく必要がある。また、小学校教師との意見交換や合同の研究会などを設け、円滑な接続を図るように努めていかなければならない。

■研究・研修のテーマ

- ① 互いに育ち合う教育・保育の在り方とクラス集団の育ち
- ② 子供の主体的な活動としての遊びが充実するための環境
- ③ 園行事の取り組みと子供の育ち

■研究・研修の視点

幼児期に育みたい資質能力として、「知識・技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」は、子供の興味や関心、発達の実情などに応じて展開する活動全体を通して育まれるものである。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねながら、世の中の状況を踏まえて保育者が工夫、対応策を考慮し、資質・能力を育めることを願った具体的な姿である。

日々の保育実践は、幼児理解に基づき計画が作成され、環境構成と活動の展開、保育者の援助、評価に基づいた循環（PDCA サイクル）のなかで行われ、一人ひとりの発達の実情を捉え、その状況に応じた多様な関わりをしていくことが求められる。

保育実践を通して、子供理解を深め、保育の改善に生かすようにすることが大切であり、それらは互いに育ち合う教育・保育の在り方と集団の育ちのプロセスに基づき計画を改善したり、子供の主体的な遊びと活動が充実したりした園生活が重要であると考えられる。

■研究・研修のテーマ

- ① 保護者や地域・社会との連携・協働～地域資源を活用した保育の在り方～
- ② 「預かり保育」「親子登園」「子育て相談」等子育て支援の在り方
- ③ コロナ禍の教育・保育～園及び家庭教育の在り方について～

■研究・研修の視点

地域社会とのつながりが希薄となっている現代では、園が地域の中心となってつながりを結んでいくことが期待されている。さまざまな関係機関と連携しながら、地域のネットワークを活用した支援体制を整えていくことも必要である。

現代社会においては、核家族化、少子化、ひとり親家庭等、家庭環境の変化が多くなってきている。そのことに伴う子供の生活習慣の未確立、コミュニケーション力の低下、愛着障害等の多くの課題が指摘されていることから、保護者が子供の成長に気づき子育ての喜びを共に感じられるよう、各園で相談、情報提供、親子登園、保護者同士の交流等、さまざまな形での支援を行うことが求められている。預かり保育では、子供の心身の負担を考慮するうえで生活リズムや生活の仕方に十分配慮しながら、生活全体が豊かなものとなるよう、家庭や地域における幼児期の教育支援に努めなければならない。教育・保育を実践する園と家庭が、子供を真ん中にして成長や育ちを支えていくことが大切である。

また、新型コロナウイルス感染症対策として新しい生活様式が定着しつつある中で、人と人とのつながりを感じるものがさらに困難な状況となっている。コロナ禍により、子ども同士や地域との関わりの減少、運動・睡眠不足など、環境が激変していることも危惧される状況下で、幼稚園等における子育て支援はますます重要なものとなってきている。

大会参加に関してのご案内

1. 大会当日の受付と資料について

○分科会資料等は、A i P Oで各自ダウンロードしていただきます。
要項については後日発送予定です。

○出欠確認は、式典・各分科会等開始前の画面での確認も事務局で行いますが、オンラインということで各園での出欠管理・確認もしっかり行って下さい。

2. 参加申込について

○インターネットでの申込みのみとなります。

福私幼連ホームページ内「会員の方へ」→「研修会のお申し込み」→「教員研修大会」はこちらからを選択していただき申し込みください。申し込み開始は、6月13日(月)からとなります。

申込締切 7月 5日(火) となります。

事務局：認定こども園大田（月、水）TEL 024-529-7611 海老原嗣まで
認定こども園上保原（火、木）TEL 024-573-0927 海老原嗣まで
直通：090-4046-8900（金、土）

3. 参加費振込先について

○インターネット申込みは参加費が自動計算されます。合計金額を下記口座にお振込みください。

○学校法人や学園でまとめることなく、園ごとにお振込みください。

○振込依頼人の欄には、必ず幼稚園等名を記入下さい。

○7月15日(金)までに、参加費を必ず振込んでください。

○参加費は4,000円（1名）となります。

振込先	東邦銀行 平野支店 (129)
口座番号	普通 332704
口座名義	第10回教員研修大会 事務局 代表 海老原 嗣

・恐れ入りますが、振込手数料は各参加園での負担をお願いいたします。

・振込金額領収書をもって領収書にかえさせていただきます。

4. 参加分科会の決定について

○参加申込時に必ず『第1希望』だけでなく『第2希望』まで記入をお願いします。なお、ご希望に添えない場合もございますのでご了承下さい。

○参加分科会の決定は、7月下旬にお知らせいたします。

5. 注意事項

○参加方法は自由ですが各園でしっかりと管理のもと参加してください。

○集団での参加も可能ですが参加者がある程度画面で全体に見えるよう参加してください。受講する職員は必ず参加申し込みを行うようお願いいたします。

○分科会決定後に各園の接続台数・参加者の数を確認いたします。

各職員参加の仕方や機材（ネット環境）等については各園で準備を進めてください。

試験接続についても分科会決定後にお知らせいたします。

○今回の研修は大会参加レポート（A4 1枚程度）を提出していただきます。分科会決定後に大会参加レポートについては詳細をお知らせいたします。